

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772300044		
法人名	社会福祉法人 幸仁会		
事業所名	さわやかホーム 比謝川の里		
所在地	沖縄県中頭郡嘉手納町字水釜336-2		
自己評価作成日	平成26年6月2日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=4772300044-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=4772300044-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成26年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が重度化する中、家庭的な雰囲気を大切に、一人ひとりの身体機能や希望、想いに沿った支援を心がけている。近隣の社会資源を利用したり、施設の庭を利用し、バーベキューや夕涼み、野菜作りなど、身近な事、できる事で生活の中に活気や潤いが持てるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2階建ての民家を増築し居室が各階にある。自宅の延長として、時間を気にせずゆったりと過ごせるようにソファを配置し、七夕飾りなど季節感を取り入れて、居心地よい環境づくりに配慮している。個々の余暇活動に利用者の残存機能を活用し、衣服の選択等は利用者の自己決定を尊重している。食事面では、一人ひとりの好みを把握し、旬の食材を採り入れ、食材や色のバランス、形態等に配慮して食欲を高め、食事への関心を引き出す工夫をしている。家族の事業所訪問や外出支援が多く、家族と情報を共有してサービスに繋げるように取り組んでいる。看取りに関しては、開設当初から取り組んできたが今後も医療機関と密に連携を図り、関係者と共にチームとして支援に取り組んでいく方針としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日：平成26年8月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をホーム内に掲示し職員間の意識付けを図り、定例会で理念の振り返りを行い実践につなげている。個々の身体機能を把握し出来る事を見出し取り組んでいる。	平成26年1月に着任した管理者は、職員と理念について話し合っている。利用者の重度化に伴い「寄り添うケア」を加え、地域との関わりを重視して「地域とのつながりを大切にする」という文言を入れた。地域密着型サービスの意義を確認し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の漁港内で行われる鯉のぼり祭り、町の祭りへ参加し交流している。旧盆には施設前にて自治会の青年会がエイサーを披露してくれる。今後は老人クラブとの交流も検討している。	2年前に自治会が自衛団を立ち上げ、事業所も学校や保育園、他の介護事業所等と一緒に自治会の避難訓練に参加している。また毎年、自治会の敬老会等にも参加しており、事業所で収穫したゴーヤーやヘチマ等を近隣に配り、地域との交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学、高校生の職場体験実習、町職員の施設見学时に支援内容を紹介している。母体と町役場が開催する介護塾等でも講師として認知症の勉強会へ参加し認知症理解に努めている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、家族、地域、行政との意見交換、状況報告を行っている。家族側から定期的な行事だけではなく、家族の交流会等も実施してみてもとの意見もあり計画中である。	運営推進会議の案内は委員に直接手渡し、年6回開催されている。会議に参加した全委員に意見を述べてもらっているが、感想や感謝の言葉が多い。利用者の参加は1回確認できた。事業所からは外部評価調査等の報告や今後の予定等の連絡を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報提供を行っている。必要があれば福祉課や包括センター、社協との連携を図り協力関係が築けるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回主管課に出向き、運営推進会議の開催案内や事業所の空き状況報告、後見人の相談等を行っている。行政からの委託事業として法人本部が「介護塾」を開催し、管理者は各自治会で認知症や介護技術等の講師をするなど、行政との協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定例会の中で話し合いを行い意識できるように努めている。転倒の危険性がある利用者については家族同意のもと、安全ベルトや夜間ベット柵を使用しているケースがある。拘束廃止へ向け常に検討している。	ベッドの四点柵の利用者が2名いる。夜間使用と日常的使用で、緊急やむを得ず拘束せざるを得ない場合などは、事業所の方針を家族に説明して確認書もらい、観察記録し、使用期限検討会も開催している。以前、安全面から玄関を施錠していたが、身体拘束にあたるため、現在は施錠していない。	「緊急やむを得ず身体拘束する場合の要件」や「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解するため、職員研修会等の実施及び身体拘束をしないケアの徹底に向けた取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で利用者に対してより良い接し方、コミュニケーションについて話し合い、意識したケアを心掛けている。今後も意識付け、学びを継続し徹底した取り組みを行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会へ参加し事業や制度について学べるよう取り組んでいる。必要性があれば関係者と話し合い上手く活用できるように取り組み支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭で内容を説明し理解を得ている。利用者、家族の意向や疑問を聴き取り、理解、納得されるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見、要望があった時は職員間の申し送りや、定例会等で話し合い、情報を共有しサービスに繋げられるよう取り組んでいる。	家族の意見等は面会時に聞いており、昼間の過ごし方や食事の形態、本棚製作等の要望はある。利用者からは運営に関する意見や要望はない。利用者や家族からは日頃の支援に対する感謝の言葉が多い。家族会はあるが、話し合い等の場合は少ない。	家族会の運営や活用方法等について改めて話し合い、利用者や家族からの相談、苦情等を事業所の運営に反映できる仕組み作りに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、定例会、業務中でも意見が聞けるよう努力している。意見交換し業務の改善、質の向上に努めている。管理者は必要に応じて、その都度代表者へ報告し改善できるよう努めている。	管理者は、常に職員に問いかけ、職員が毎月の定例会以外にも随時意見が言える機会をつくっている。職員の意見で、利用者の重度化に対応するためのキャスター付きシャワーチェアを購入している。法人の人事異動が不定期にあるが、家族への説明は行われていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金があり意欲向上につながっていると思われる。職員の意見を反映させ職場環境、条件の整備に努めているが、人事異動がある事で不安、戸惑いがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修への参加、施設内での勉強会等を活用し、学ぶ機会を提供し質の向上に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて同業者同士の情報交換や困難事例の相談を行っている。また、必要に応じて同法人内事業所職員との連携、相談を行う事で質の向上へ繋げられるように取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活状況、性格を把握し、本人のペースに合わせた対応へ努め、話や訴えを傾聴し気分転換を図りながら安心して生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、家族の気持ち、意見、要望を汲み取り職員間で共有し、状態の変化があればその都度報告し相談する。信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としているサービス、身体状況等も含め、相談しながら見極め、他のサービス情報も提供しながら対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の得意分野を活かした役割分担を行い協力できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも気軽に面会、相談できる環境を意識し、家族と共に支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染ある理容館へ出かけたり、友人、知人との交流が図れるよう支援している。家族や友人、知人の面会にも柔軟に対応している。	家族や友人に暑中見舞いや年賀状を送ったり、馴染みの理髪店を利用した後に友人宅を訪問する等の関係継続の支援をしている。シーミー等で家族と墓参りに行く時、必要な利用者には車椅子を貸し出している。関係性の把握は面会時に家族からも情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように、利用者同士の関わり、関係作りが出来るようにコミュニケーションを図っている。レク活動や行事等、日々の生活が楽しく送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所(本体の特養へ入所)された利用者にも定期的に面会し、コミュニケーションを図っている。家族からの相談にも対応出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが安心して生活できるよう意向の把握に努めている。重度化し困難な利用者に対しては、家族、職員間で支援内容を相談し支援できるように努めている。	「毎日笑っていたい」「美味しいご飯が食べたい」等、利用者の意向を本人に聞き、困難な場合は本人の仕草や家族の情報で把握している。食欲不振時は好きな物を提供し、不穏時は家族の協力を得て自宅近くを散歩したり、職員と買い物に出かけたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者から、生活歴や家庭環境、これまでの暮らし等について情報を聞き取り、状態把握に努め、サービス提供へ活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格、身体機能、生活歴、日々の生活の中で有する能力を観察し、職員間で情報を共有、現状の把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の情報交換を行い、本人、家族、主治医からの意見も含め、モニタリング、カンファレンスを開催し現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを実施している。担当制ではないが、職員は申し送りや定例会以外にも随時、情報提供や意見交換を行っている。担当者会議に利用者本人や家族も参加して、6か月に1回の介護計画の見直しに利用者の意向や思いを反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態をケース記録へ記録、職員間で情報を共有し実践、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望、状況に応じて柔軟に対応できるよう支援している。外出や行事、その他相談があれば臨機応変に必要なサービスが提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度化に伴い、以前の様に頻回に買い物に出る機会は少なくなったが、車椅子を利用して買い物や四季折々の行事への参加、外出が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるに支援している。家族対応が困難場合は職員が対応している。	本人や家族が納得したかかりつけ医の受診を支援し、他科受診も連携のとれた医療機関を紹介している。週1回は法人の看護師の訪問がある。受診は家族対応を基本とし、管理者が代行することもある。受診後は家族より口頭で報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化がある時は、24時間オンコール体制の看護師（本体看護主任）に連絡相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心して治療が行えるように定期的に面会し、家族、関係者との情報交換を行っている。退院時には家族、関係者とカンファレンスを開催し退院後の支援がスムーズに行えるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としては積極的にターミナルケアに取り組んでいるが、現在の入居者が重度化した場合や終末期のあり方について、相談、方向性が決まっている方、意向や方向性が決定していない方がいる。早急に意向を確認し安心したケアが提供できるよう取り組んで行く。	重度化した場合の対応及び看取りケアの指針が作成され、家族からも同意を得ている。開設当初から10年間、地域にある医療機関と密に連携を図り看取りを行った経験があり、今後も取り組みを続ける方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当、初期対応等の資料は掲示してあるが、定期的な訓練は実施していない。定期的な訓練、研修等で学び、実践力を身に付けられるよう努めたい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回(昼間・夜間)の避難訓練を実施している。地震、津波災害時のマニュアルを作成し避難場所の確保や本体からの協力体制、支援も確保している。全職員が避難方法を周知徹底できるよう定期的に訓練や勉強会を実施する。	消防署立会いのもと、年2回、昼・夜を想定した避難訓練を実施し、法人内他事業所に勤務する地域在住の職員が訓練に参加している。スプリンクラーや火災通報装置が設置されており、ラジオや電灯・リハビリパンツ等が準備され、食料は法人で備蓄されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、寄り添うケア、見守るケア、個々の能力に応じたケアを心掛けている。プライバシーを損ねない言葉かけ、対応にならないように努力している。	今年度、職員で話し合い「寄り添うケア」を理念に加えた。利用者が自己決定しやすい言葉で、本人の希望に対応している。職員の気になる言葉かけには職員間で注意し合い、管理者は定例会で、プライバシーを損ねない対応も議題にして事例検討会等を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けの無いよう、本人の意向を確認し自己決定できるように努めている。表現できない利用者には表情や仕草などを観察し本人の希望に近づけるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望、意向を傾聴し一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のおしゃれは常に意識し本人の希望を尊重し、個々の能力に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員が参加するのは難しいが、能力に合わせて、食事の準備やお茶パック詰め、片付け等の場を提供している。	家庭菜園のほうれん草やゴーヤー等も使って、職員が調理をして小鉢に盛り、ペースト状の料理については食材の説明をしながら介助している。利用者は体調に合わせて下ごしらえや洗い物をし、職員も同じ食事を一緒に摂っている。時間をずらして食事をする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせて対応する事を意識し、食事、水分摂取量、状態を観察し適切に対応している。必要に応じて栄養補助食品等も利用している。状態に合わせて形態やメニューを変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施、促している。個々の能力に応じて見守り、一部介助、全介助で対応し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に応じた対応を心掛けている。排泄パターンを把握し自立支援できるよう努めている。失敗した場合は不衛生にならないよう入浴や半身浴で支援している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、仕草等も観察してトイレ誘導をしている。夜間ポータブルの利用者も日中はパットで対応し、自分でパット交換できる支援に取り組んだ結果、自立できた利用者もいる。失敗時はさりげなく声掛けして半身浴等で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取、食物繊維の摂取、運動を取り入れ予防に努めている。牛乳、ヨーグルト、芋類の摂取を意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定しているが、希望や拒否がある時は調整し対応している。外出や家族の希望、汚れた時など臨機応変に支援できる。	入浴は、週2回午前を基本にシャワー浴を支援している。入浴を拒否する時は時間や職員を変えて対応している。シャンプー等は事業所で準備し、希望に沿って入浴を支援している。入浴後は着替えを本人に選んでもらう等、利用者が自己決定できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室や共有スペースで自由に休憩が取れるように支援。夜間は室温や寝具類の調整、睡眠状態の確認を行い、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。不眠者には無理強いする事なく観察を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱に説明書を貼り付け、目的、副作用、用法、用量等について確認できるようにしている。変更があった時は申し送りを行う。投薬時は声に出し、職員間で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握し、その人に合った役割、楽しみ事が支援できるように努めている。無理強いする事なく楽しんでもらえるように支援している。定期的に職員間で確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々、季節を感じられるような外出支援を心掛けている(初詣、桜、つつじ見学、浜下り、イルミネーション見学、ショッピング等)。家族へも外出支援の協力を行い、可能な方は定期的に外出されている。	庭の野菜や草花に水やりをしたり、職員と一緒に草刈りをする利用者もいる。月1回は法人のリフト車で動物園や博物館等へ出掛けている。弁当を持参して公園で食べたり、家族や職員と一緒に外食に出掛けたりしている。重度の利用者には庭での日光浴等を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が難しく、施設にて預り金として管理している。外出時や本人の希望があれば利用できる状態である。心配する利用者には安心するような声掛けで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望がある時は電話をかけてもらっている。暑中見舞いや年賀状の作成の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な作りで、日当たりも良好。縁側に座り庭を眺めながら過ごす事もできる。庭を眺めながら雑談、TV、DVD鑑賞をしたり心地よく過ごせる環境である。庭で咲いた花を花瓶に生け季節感も感じられるよう工夫している。	事業所は2階建て民家を増築しエレベーターも設置している。訪問時は季節的に利用者が書いた笹飾りがあった。利用者は食事作りの様子が見え、匂いや音も感じられる環境となっている。ソファーに腰掛けてテレビを見たり、面会に訪れた家族と話している場面も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーや椅子は自由に利用でき、座ったり、横になったり思い思いに過ごせる。利用者同士で過ごす事ができる。常に声が聞こえる環境で利用者も職員も安心して過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や手工芸の作品が掲示されていて、時計やラジオ等がある。使い慣れた物や好みを活かして居心地よく過ごせる環境になっている。	居室は2階に7部屋、1階に2部屋あり、利用者の希望や残存能力が活かせる居室選びに努めている。写真を飾ったり、ラジオを持ち込んでいる利用者もあり、以前入居していた方のタンスやソファー等も了解を得て再利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りしやすい空間で利用者の安全を確認できる。コール利用の促しで転倒の予防になっている。個々の能力を把握する事で声かけや見守り対応で安全に過ごせるように工夫している。		